

# Loeb 空間と選択公理

alg-d

<http://alg-d.com/math/ac/>

2015 年 12 月 13 日

定義.  $X$  を位相空間とし,  $X$  の空でない閉集合全体のなす集合を  $\mathcal{A}_X^0$  で表す.

1.  $X$  が Loeb 空間  $\iff \mathcal{A}_X^0$  が選択関数を持つ.
2.  $X$  が弱 Loeb 空間  
 $\iff \mathcal{A}_X^0$  が以下を満たす関数  $f: \mathcal{A}_X^0 \rightarrow \mathcal{P}(X)$  を持つ.

任意の  $F \in \mathcal{A}_X^0$  に対して  $0 < |f(F)| < \infty$  かつ  $f(F) \subset F$

例 1.  $X$  を位相空間とする.  $X$  が整列可能ならば  $X$  は Loeb 空間である. □

例 2.  $\mathbb{R}$  は Loeb 空間である. □

例 3.  $X$  を任意の集合とする.  $X$  に離散位相を入れて Alexandroff の一点コンパクト化  $\bar{X} = X \cup \{\infty\}$  を考える.  $\mathcal{A}_{\bar{X}}^0 = \{Y \subset X \mid |Y| < \infty\} \cup \{Y \cup \{\infty\} \mid Y \subset X\}$  だから,  $\bar{X}$  は弱 Loeb 空間である. □

定理 4. 次の命題は (ZF 上) 同値.

1. 選択公理
2. 任意の位相空間は Loeb 空間である.
3. 離散位相空間は Loeb 空間である.
4. 任意の位相空間は弱 Loeb 空間である.
5. 離散位相空間は弱 Loeb 空間である.

証明.  $1 \implies 2$  と  $2 \implies 3$  は明らか.

$(3 \implies 1)$   $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を互いに素な非空集合の族とする.  $X := \bigcup_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda$  に離散位相を入れる. 仮定により  $X$  は Loeb 空間である. 故に  $\mathcal{A}_X^0$  が選択関数を持つから,

$\{X_\lambda \mid \lambda \in \Lambda\} \subset \mathcal{A}_X^0$  も選択関数を持つ.

$1 \implies 4$  と  $4 \implies 5$  も明らか.

( $5 \implies 1$ )  $3 \implies 1$  と同様にして  $5 \implies \text{AMC}$  が分かるから, 選択公理と AMC が同値であることより従う.  $\square$

**定理 5.** 選択公理

$\iff$  弱 Loeb 空間の開部分空間は弱 Loeb 空間である.

**証明.** ( $\implies$ ) 明らか.

( $\impliedby$ ) 離散位相空間  $X$  が弱 Loeb 空間であることを示せばよい. 例 3 で述べたようにコンパクト化  $\bar{X}$  は弱 Loeb 空間である. 故に仮定から開部分空間  $X \subset \bar{X}$  も弱 Loeb 空間である.  $\square$

**定理 6.** 次の命題は (ZF 上) 同値.

1. 選択公理
2. 任意のコンパクト Hausdorff 空間は, 整列可能な稠密部分集合を持つ.
3. 任意のコンパクト Hausdorff 空間は, 整列可能な基底を持つ.
4. コンパクト Hausdorff 空間の任意の点は, 整列可能な基本近傍系を持つ.

**証明.** ( $1 \implies 2$ ) 明らか.

( $2 \implies 1$ ) 離散位相空間  $X$  が Loeb 空間であることを示せばよい. コンパクト化  $\bar{X}$  はコンパクト Hausdorff であるから, 仮定より整列可能な稠密部分集合  $D \subset \bar{X}$  を持つ. しかし  $\bar{X}$  の稠密な部分集合は定義から  $X$  か  $\bar{X}$  しかない. 従って  $X$  は整列可能であり, Loeb 空間であることが分かる.

( $1 \implies 3$ ) 明らか.

( $3 \implies 1$ )  $\bar{X}$  の基底は  $\{\{x\} \mid x \in X\}$  を含むので  $X$  は整列可能である.

( $1 \implies 4$ ) 明らか.

( $4 \implies 1$ ) 離散位相空間  $X$  が弱 Loeb 空間であることを示せばよい. コンパクト化  $\bar{X} = X \cup \{\infty\}$  はコンパクト Hausdorff であるから,  $\infty \in \bar{X}$  は整列可能な基本近傍系  $\mathcal{N}$  を持つ.  $\mathcal{N}$  の整列順序を一つ定めておく.  $\bar{X}$  の定義から各  $U \in \mathcal{N}$  に対して  $|X \setminus U| < \infty$  である. そこで  $F \in \mathcal{A}_X^0$  に対して  $f(F) := F \setminus \min\{U \in \mathcal{N} \mid F \not\subset U\}$  と定めれば  $0 < |F| < \infty$  かつ  $f(F) \subset F$  である.  $\square$

**定理 7.** 次の命題は (ZF 上) 同値.

1. 選択公理
2. Loeb 空間の直積は Loeb 空間である.
3. Loeb 擬距離空間の直積は Loeb 空間である.

証明.  $1 \implies 2$  と  $2 \implies 3$  は明らか.

( $3 \implies 1$ )  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を非空集合の族とする.  $Y_\lambda := X_\lambda \cup \{\infty\}$  に擬距離  $d_\lambda$  を

$$d_\lambda(x, y) := \begin{cases} 0 & (x, y \in X_\lambda \text{ または } x = y = \infty) \\ 1 & (x = \infty, y \in X_\lambda \text{ または } x \in X_\lambda, y = \infty) \end{cases}$$

で定める.  $(Y_\lambda, d_\lambda)$  は Loeb 擬距離空間である.

$\therefore \mathcal{A}_{Y_\lambda}^0 = \{X_\lambda, \{\infty\}, Y_\lambda\}$  より分かる.

$Y := \prod_{\lambda \in \Lambda} Y_\lambda$  を擬距離空間  $Y_\lambda$  の直積とすれば, 仮定より Loeb 空間である.  $\pi_\lambda: Y \rightarrow Y_\lambda$  を標準射影として,  $A_\lambda := \pi_\lambda^{-1}(X_\lambda)$  と置く.  $A_\lambda \subset Y$  は閉集合だから,  $Y$  が Loeb 空間であることより  $\{A_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  の選択関数  $g$  が存在する. このとき  $f(\lambda) := \pi_\lambda(g(\lambda))$  と定めれば  $f$  が  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  の選択関数である.  $\square$

**命題 8.** Loeb Hausdorff 空間の直積は Loeb 空間

$\implies$  非空整列可能集合の族  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  は選択関数を持つ.

証明.  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を非空整列可能集合の族とする. どの  $X_\lambda$  にも含まれない元  $\infty$  を取り  $Y_\lambda := X_\lambda \cup \{\infty\}$  に離散位相を入れるとこれは Loeb Hausdorff 空間である. よって直積空間  $Y := \prod_{\lambda \in \Lambda} Y_\lambda$  は Loeb 空間である. そこで  $g: \mathcal{A}_Y^0 \rightarrow Y$  を選択関数とし,  $\pi_\lambda: Y \rightarrow Y_\lambda$  を標準射影とする.  $Y$  の定義から明らかに, 各  $\lambda \in \Lambda$  に対して  $\pi_\lambda^{-1}(X_\lambda) \in \mathcal{A}_Y^0$  である. よって  $f: \Lambda \rightarrow \bigcup_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda$  を  $f(\lambda) := \pi_\lambda(g(\pi_\lambda^{-1}(X_\lambda)))$  で定めれば  $f$  が選択関数である.  $\square$

**命題 9.** Loeb Hausdorff 空間の直積は Loeb 空間

$\implies \{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を整列可能集合の族で  $\Lambda$  が整列可能ならば  $\bigcup_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda$  も整列可能.

証明.  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を非空整列可能集合の族とする. 命題 8 と同じ記号を使うことにして,  $A \subset X_\lambda$  を取ると  $\pi_\lambda^{-1}(A) \in \mathcal{A}_Y^0$  である. よって  $\mathcal{P}(X_\lambda) \setminus \{\emptyset\}$  の選択関数  $f_\lambda$  が  $f_\lambda(A) := \pi_\lambda(g(\pi_\lambda^{-1}(A)))$  により定まる. この選択関数  $f_\lambda$  により  $X_\lambda$  の整列順序  $\leq_\lambda$  が

定義される．これにより  $\bigcup_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda$  の整列順序が定義できる．故に  $\bigcup_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda$  は整列可能である． □

系．選択公理

$\iff$  Loeb Hausdorff 空間の直積は Loeb 空間，かつ任意の集合は整列可能集合の整列和で書ける． □

命題 10. コンパクト Hausdorff 空間は Loeb 空間

$\iff$  非空コンパクト Hausdorff 空間の直積は空でない．

証明. ( $\implies$ )  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  を非空コンパクト Hausdorff 空間の族とする． $X := \prod_{\lambda \in \Lambda} X_\lambda$  を直和すれば，Alexandroff の一点コンパクト化  $\bar{X}$  はコンパクト Hausdorff である．仮定から  $\bar{X}$  は Loeb 空間となり，故に定理 4 の証明と同様にして  $\{X_\lambda\}_{\lambda \in \Lambda}$  が選択関数を持つことが分かる．

( $\impliedby$ )  $X$  をコンパクト Hausdorff 空間とすれば， $\mathcal{A}_X^0$  は非空コンパクト Hausdorff 空間の族である． □

## 参考文献

- [1] K. Keremedis and E. Tachtsis, On Loeb and weakly Loeb Hausdorff spaces, *Scient. Math. Jap.* 83 No 2, (2001) 3, 413–422, <http://www.samos.aegean.gr/math/kker/>
- [2] K. Keremedis, Compact and Loeb Hausdorff spaces in ZF and the axiom of choice for families of finite sets, *Math. Log. Quart.* 58, No. 3 (2012), 130–138
- [3] H. Herrlich and K. Keremedis and E. Tachtsis, Countable sums and products of Loeb and selective metric spaces, *Commentationes Mathematicae Universitatis Carolinae*, vol. 46 (2005), issue 2, 373–384, <http://dml.cz/dmlcz/119531>
- [4] K. Keremedis K and E. Tachtsis, Weak axioms of choice for metric spaces, *Proc. Amer. Math. Soc.* 133 (2005) 12, 3691–3701, <http://dx.doi.org/10.1090/S0002-9939-05-07970-0>